

4/22

### 紫白綬有功章受章

大日本農会農事功績者表彰



この度、大日本農会農事功績者として大田原市湯津上の江崎 明雄 氏が紫白綬有功章を受章されました。江崎氏は、本県育成の梨品種「にっこり」をいち早く導入し、先進的な大規模経営を実践して、県内における梨の生産振興はもとより、経営モデルの先駆者として活躍されてきました。また、栃木県園芸特産振興協会のリーダーとして「にっこり」の普及拡大や後進の指導に尽力され、現在も栃木県名誉農業士として活躍されています。

4/12

### 「ありがとう」おもいをのせたランドセル

ありがとう鉛筆の贈呈



市が取り組んでいる「ありがとう運動」の一環として、大田原市より新入学児童に対し入学記念の「ありがとう鉛筆」を贈りました。

この運動が、お子さまを通して家庭や地域にまで広がり、多くの人に笑顔と幸せが広がることを願っています。

なお、「ありがとう鉛筆」は市内全小学校1年生に贈られており、今年度は市内代表として、奥沢小学校において贈呈式が行われました。

## 市史編さんだより vol.20

以前、なかがわ水遊園を訪れた時、たまたま敷地内の釣り池に3羽のサギが並んでいました。左からアオサギ、ダイサギ、コサギです。体の色が青灰色のアオサギは青鷺、大きいダイサギは大鷺、小さいコサギは小鷺と書くので、この3羽が並ぶと「アオダイショウ(青・大・小)だな」と思ったものです。

さて、昭和56年(1981)に日本野鳥の会栃木県支部が発行した『栃木県産鳥類目録』には、アオサギは渡りの時に本県を通過する「旅鳥」、ダイサギは「夏鳥(一部冬鳥?)」で、どちらも数は「少」とあり、コサギは一年中見られる「留鳥」で、数は「普通」と載っていました。それが今では、水田や川でエサを探すサギのほとんどがアオサギとダイサギで、季節を問わず見られるのに対し、コサギはなかがわ水遊園くらいでしかお目にかかれない少ない鳥になってしまいました。

サギ類の集団繁殖地である「サギ山」の主要構成員を見ても、ダイサギとアオサギが多数を占めるようになった一方、コサギ・アマサギ・ゴイサギは数を減らしています。近年は騒音・悪臭・漁業への影響と評判の悪いサギ達ですが、じっくり観察してみると、彼らの中にも栄枯盛衰があることがわかります。

(自然部会 刑部 節)

問 文化振興課 TEL (47) 5031



左からアオサギ、ダイサギ、コサギ(令和2年12月18日)



繁殖期にはくちばしが黒くなるダイサギ(令和4年4月19日)